



種 高 魂

卒業式特別号

令和3年3月1日発行

岩手県立種市高等学校学校通信

3年間の思い出を胸に秘め、本日旅立ちます。

～ 令和2年度 卒業式 挙行される ～

3月1日(月)に令和2年度卒業式が挙行され、卒業生(普通科26名、海洋開発科24名、計50名)は、それぞれの道へ旅立ちました。

平成30年4月に本校生徒となり、3年間、学習や生活・部活動等で下級生の模範となり、私たちを導いてくれました。それぞれの新たな進学・就職先でのご活躍を祈念いたします。

【 式 辞 】

数年ぶりの大雪に見舞われたこの冬。そして、寒さも例年にない程厳しかったこの冬。加えて、一昨年来の新型コロナウイルス感染症の感染拡大。記憶に残る冬でありました。しかし、本日、卒業生の皆さんは、人生の大きな節目を迎えました。

本日は、ご多用中にも関わらず、洋野町長 水上 信 宏 様はじめ、ご来賓の方々のご臨席を賜り、保護者、ご家族の皆様のご列席を頂きましたことに厚くお礼申し上げます。

まずは、本日卒業証書を手にした皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも、これまでの本校に対するご支援、ご協力に、高い席から甚だ失礼とは存じますが、心より感謝申し上げます。

さて、本日晴れて卒業を迎えた皆さん、皆さんの出身中学校はいくつでしょう。地元、種市中、そして、昨年四月に統合されました宿戸中、さらに、大野中からも来ていましたね。ありがとう。久慈地区では、久慈中、長内中、侍浜中、三崎中学校から通っていただきました。ありがとう。県内では、雫石中、北上南中、ありがとう。隣接の青森県からは、階上町の階上中、道仏中、八戸からは、白銀中、八戸第三中、鮫中、八戸東中、長者中、下長中、十和田からは三本木中から来てくれました。ありがとう。また、遠く茨城の新治中から来てくれました。ありがとう。全部でいくつだったか数えられましたか。19です。自分の中学校から自分だけ、一人だけ種市高校に来ましたという人が9人、二人だけ来ましたというのが4校8人。

決して、便利で賑やかな場所にあるわけではない種市高校に学んだ3年間。楽しいこと、苦しいこと、様々なことがあったでしょう。

1年生の時は、創立70周年でした。皆さんの先輩までは、普通科が2クラスでしたので、今以上に賑やかで、部活動も活発であったことでしょう。2年生の春には、海洋開発科に新しい仲間、第7代種市丸が加わりましたね。しかし、秋の種高祭は、台風19号のために縮小開催を余儀なくされました。そして、八戸線が不通となり代行バスで不便な思いをした人もいらっしゃるでしょう。修学旅行の前に復旧して、ホッとしましたね。修学旅行と言えば、海洋開発科の皆さんは、全焼した首里城再建のための募金を届けられましたね。そして、新型コロナウイルス。3月の卒業式では上級生の卒業を見送ることができず、高校総体、高校野球は軒並み中止の発表がなされ、為す術なく引退となった人も少なくないはず。一部の人は入試でも振り回されました。2年次の民間英語試験や共通テストの記述式の対応、3年次の

コロナによる入試要項の変更など最後まで樂觀を許されない状況が続きました。また、例年9月の就職の統一選考は一ヶ月後ろ倒しとなり、一部の人はオンライン面接を受けました。これらのことは、新聞やテレビのニュースではなく、皆さんの現実起こったことでした。

人は、たくさんの情報に触れて生きています。今日はネギが100円だ。天候不良で、野菜が高くなるようだ。新型コロナウイルスは若者には重い症状が出ないようだ。GO to キャンペーンで普段は泊まれないようなホテルに安く泊まれるそうだ。いろいろな情報があります。それらを私たちは最終的に、自分との距離感で取捨選択します。うちにはネギがたくさんあるから今日は買わない。野菜が高くなるなら、少し節約しよう。私は若いから、ちょっとくらい外に出て食事しても大丈夫だろう。いや、うちには基礎疾患のあるおじいさんがいるから散歩するのは控えよう。あくまで、選択権は「自分」です。しかし、別の人の「自分」は違うかも知れない。100円なら



いっぱい買っておこう。高くならないうちに買っておこう。感染者が少ない今のうちに出かけて遊んでおこう。どれも間違った選択とはいえませんが。

新型コロナウイルス感染症は、自由と制限という重大な問題を見つけました。憲法で保障された移動や職業選択の自由、普通教育の保障などをコロナ対策の名目で制限する。通常の生活を営むことと、命を守る、医療を守ることとの天秤。難しいことです。

学校は、残念ながら正解を教えることができません。「明日から休校です。休校中は、三密を避け、規則正しい生活をしてください。」と指示するだけです。これまで、小さい頃からたくさんの指示をされてきたことと思います。早く起きなさい。残さずご飯を食べなさい。道具の準備をなさい。宿題をなさい。手を洗いなさい。歯を磨きなさい。

今日は、卒業式です。ひょっとすると、まもなく地元を離れて一人暮らしをする人もいるでしょう。家から通う人も、学校という縛りが無ければ、前述のような「しなさい」がなくなり、自分で判断して生活することとなるでしょう。

明日からは、これまでの18年間で培ってきた「自分」が試されます。くしくも本校の校是は「自愛、自立、自彊」です。自分の判断が、自分だけのためのものか、誰かの役に立つのか、世の中に貢献するものなのか、社会に害をもたらすものなのか、試されます。多くの場合、誰も採点してくれません。褒めてくれません。叱ってくれません。何を決断し、どういう影響があるか「自分」が責任を取らなくてはなりません。今日のうちによい結果となることもあるでしょう。何十年もして悪い結果となるかも知れません。用心しすぎて何もできないのも困ります。困ったら、誰かに相談する勇気も必要です。

卒業に当たり、この言葉を贈ります。

人は、食べたもので作られる。心は、聞いた言葉で作られる。未来は話した言葉で作られる。

何を食べるかの選択、何を聞くかの選択、どの言葉を選ぶかの選択。選択権は「自分」にあります。どうか、自分を磨いてください。自分も大切に、周りの人たちも大切に生きていってください。

節目に当たり、いろいろなことに感謝する日であってほしいと思います。ここまで育ててくださった保護者の皆様、陰になり日向になり学校活動を支援して下さったPTA、同窓会の皆様。校外学習や就業体験でお世話になった地域や企業の皆様。そして、本校のために、大きな予算を組んでくださり、この一月からは寮からのスクールバス運行、来年度からの新入生支援など次々と策を講じて下さった洋野町の皆様。本当にありがとうございました。

結びに、皆さんの前途が、幸福で健康なものとなりますよう、また、ご参会の皆様のご健勝をお祈りし、式辞といたします。

令和3年3月1日

岩手県立種市高等学校 校長 松 場 喜美夫



卒業生の素晴らしい功績が表彰されました

～ 各種表彰式(2/26金)受賞者紹介 ～

表彰名	科	氏 名
3カ年皆勤	普通	榎 内 陸 斗 小 鷹 捺 緑
	海洋開発	大 崎 和 輝 小 屋 畑 拓 磨
3カ年精勤	普通	上 沢 海 鈴 十 文 字 星 那 種 市 健 汰
	海洋開発	種 市 碧 月 橋 場 な つ み 鹿 糠 鉄 斗 佐 京 壮 亮 佐 藤 友 祐 滝 谷 友 基 橋 本 颯 汰
(公財)産業教育振興中央会御下賜金記念優秀卒業生	海洋開発	渡 辺 里 奈
(一社)日本潜水協会会長賞	海洋開発	内 澤 羅 亜
東日本高等学校土木教育研究会会長賞	海洋開発	村 上 和 真
岩手県産業教育振興会会長賞	海洋開発	滝 谷 友 基
全国工業高等学校長協会ジュニアマイスター顕彰制度		
・ゴールド受賞	海洋開発	村 上 和 真 佐 藤 友 祐 滝 谷 友 基 岡 澤 祥 太 郎 渡 辺 里 奈 熊 谷 かなめ 一 郷 真 勇 及 川 太 一 佐 京 壮 亮
・シルバー受賞	海洋開発	西 浜 優 悟 橋 本 颯 汰 松 山 千 崇 船 渡 敬 太 内 澤 羅 亜
・ブロンズ受賞	海洋開発	川 村 正 田 朗
岩手県高等学校家庭クラブ連盟表彰	普通	石 倉 ティナ
危険物取扱者乙種全類取得者表彰	海洋開発	村 上 和 真
(公財)全国経理教育協会主催能力検定試験表彰	普通	上 沢 海 鈴 榎 内 陸 斗 齋 優 也
洋野町教育振興会表彰	海洋開発	鹿 糠 鉄 斗



卒業生へ心温まるご祝辞を賜りました

【 来賓祝辞(要旨) 】

○洋野副長 水上信宏 様



普通科 26 名、海洋開発科 24 名、計 50 名の皆さん、卒業おめでとう。伝統ある種市高等学校に入学し、早いもので 3 年。思い出が走馬燈の如く蘇ってくることでしょ。ここまでの皆さん、一人ひとり努力してきたことと思いますが、保護者、教職員、クラスメートの存在があつたのことと思います。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、今までと違う高校生活に戸惑ったことと思いますが、きっとこの経験は今後の生きる糧となるだろう。伝統ある種高の誇りを胸に、未来を切り開き新たな一歩を踏み出して生き抜いてほしいと思います。

○PTA 会長 北山 徹 様

卒業おめでとう。新型コロナウイルス感染症拡大により、当たり前のことができない不便さを感じた高校生活だったことでしょう。インターハイの中止による無念さはあまりあるに違いありません。しかし進路実現のために明日に向かって頑張っている姿に好感を持って見守っていました。これからは自身の行動に責任をもって、夢を持った生活をしていこう。

皆さんには 3 年間の経験と人の財産がある。それを胸に夢への挑戦をしてほしい。人の夢を応援できる大人になってほしい。

○同窓会長 日當 博治 様



卒業おめでとう。ご活躍は学校通信等で紹介されてきたが、数々の快挙に対し敬意を表する。10 年前の東日本大震災と今回の新型コロナウイルス感染症という今までに体験したことのない脅威を二度も体験した。きっと強くなったことだろう。これを糧に強く生き抜いてほしい。そのような中、熊本県への募金活動等においても、元気に明朗に活躍し続けてくれた。同窓会として賛辞を送りたい。

これからはそれぞれの道に進む。厳しい社会経済だが、同窓生 6,700 名が君たちの見方だ。前途洋々。72 年の誇りを胸に大きく飛躍してほしい。



在校生送辞、卒業生答辞 紹介

【 送 辞 】

寒さも少しずつ和らぎ、木々の芽がふくらみ始めたこの良き日に、卒業を迎えられた皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心からお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした日々を思い起こしますと、先輩方は、学校行事や生徒会活動、部活動など多くの場面で、私たち 1,2 年生の模範となるような素晴らしい活動を見せてくださいました。

コロナウィルスで開催を縮小した中で行ったスポーツフェス。三密を避け「する」「みる」「ささえる」をコンセプトとした行事で、新生活様式を意識しながら楽しむことができました。文化祭では企画・運営等を工夫し、ウィルス対策を講じながら、クラスや学年を越えて、学校全体が盛り上がるように、一生懸命に活動されていました。

また、生徒会活動では、それぞれの役割や仕事の進め方など、言葉だけではなく、行動でも私たちに示し、伝えて下さいました。先輩方が引退した後、私たちが様々な行事を成功させることができたのは、先輩方のアイディア



とアドバイスのおかげだと、大変感謝しております。

また、部活動では、コロナウィルスにより、大会等が中止となり、最後の発表の場を失いともつらかったことと思います。しかし、その中でもいつも通り笑顔で、技術面でも精神面でも多くのことをご指導頂きました。苦楽を共に過ごしてきた日々が終わってしまうことを、大変寂しく思います。これからは、ご指導頂いたことを忘れず、技術と同時に人間性も鍛え、人と成長できる部活動を目指していきたいと思ひます。

今、卒業生の皆様はそれぞれの未来に向かって歩み始めます。それに伴って、今まで以上の困難に直面することもあるでしょう。その時には、初心に戻ったつもりで取り組んだり、周囲の人に助けを求めたりしてください。先輩方なら、どんな困難にも立ち向かうことができると信じています。

皆様の進路も 100% 決定したと伺っております。中でも普通科からは今年も国公立大学に合格されました。放課後遅くまで残って勉強をしたり、面接の対策をしたりしている姿をよく見かけました。また、海洋開発科では、ジュニアマイスター顕彰制度において、表彰を 15 名受賞されたこと伺いました。素晴らしい成果を挙げられた先輩方を誇りに思います。これまで先輩方が築き上げてきた伝統と、誇るべき輝かしい功績を引き継ぎ、よりよいものにするために、在校生一同よりいっそう努力を重ねて参ります。

最後になりましたが、新しい世界へと羽ばたく皆様のこれから先の未来が、明るく健康で、輝かしいものとなりますよう、お祈りいたしまして、送辞といたします。

令和 3 年 3 月 1 日

在校生代表 関 端 あさひ

【 答 辞 】

寒さもゆるみ、過ごしやすい季節となりました。いよいよ旅立ちの日。私たちは今日、卒業します。令和になり世界では新型コロナウイルスが猛威を振るい、今でも多くの方が苦しんでおられます。その影響で日本各地では様々なイベントを自粛したり、中止されたりしている中、今日の日を迎えられたことに感謝いたします。卒業式を挙げていただきましたことに心からお礼申し上げます。日本だけでなく世界的に先行き不透明で不安定な時代であり、大きな分岐点にあります。このような今だからこそ、後悔しないためにも一人ひとりの決断が大切になります。また社会人としての自覚をもち日々精進していきます。

3 年という月日は長いようで今となってはあっという間に過ぎ去ったように感じられます。この日を迎えることができた喜びと達成感に満たされると同時に、種市高校、共に過ごしてきた仲間や先生方との別れに寂しさを覚えています。

在校生の皆さん、先程は素晴らしい送辞をありがとうございました。決して頼れる先輩ではありませんでしたが、どんな時でも私たちについてきてくれてありがとう。最後に先輩として伝えたいことは悔いが残らないように一日一日を大切に、高校生活を送ってほしいということです。卒業までは本当にあっという間です。高校生活の日々はかけがえのない大切なものとなるはずですが、種市高校のこれまでの伝統を引き継ぎ、新しいものを築き上げていってください。私たちは種市高校を離れますが、皆さんの活躍によって種市高校が更なる発展を遂げることを信じています。

いつも私たちのことを考え支えてくれた先生方。学習面はもちろん、生活面や進路など様々な面で支え、導いてくださいました。迷惑をかけた部分もたくさんありました。今思うと厳しい言葉の中には優しさがあつたことだったと感じています。最後まで私たちを見捨てず指導していただいたことは一生心に残るものだと思います。本当にありがとうございました。ここまで成長することができたのは時間を割いて指導して下さった先生方のおかげです。卒業生一同、感謝しています。卒業後も種市高校で教えていただいたことを活かし、今後も成長できるように努力して参ります。

一番近くで見守り支えてくれた家族。なかなか素直になれず自分の意思をうまく言えなかつたりしてたくさん迷惑をかけました。ずっと応援してくれる家族がいたからこそ、ここまで頑張ることができました。どんなときも寄り添い、励ましてくれたことに感謝しています。お父さん、お母さん、今まで本当にありがとう。これからは新たに始まるステージで果敢に挑戦し続けます。

最後に 3 年間に共に過ごしてきた 3 学年のみんな。そばにいたことが当たり前だと思っていた友達。つらいときは共に悲しみ、嬉しいときは共に喜び、いつも互いに励まし合い、元気づけ合った本当に大切な仲間です。これから先、私たちはそれぞれの道へと歩んでいきます。困難もたくさん待ち受けていることだと思います。その時は、学んだことやここで出会った仲間を思い出し、顔を上げて前に進んでいこうと思ひます。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止策を受け、部活動や行事等を思うようにできませんでした。やり場のない悔しさと虚しい気持ちでいっぱいになりました。大会の中止や行事の縮小など例年とは異なり納得のいかない部分もありましたが、仲間と共に乗り越えることができました。その経験を活かし、これからは社会に貢献していくことを誓います。結びに皆さまのご健勝と岩手県立種市高等学校の更なる発展をご祈念申し上げ答辞といたします。

令和 3 年 3 月 1 日

卒業生代表 林 崎 成 美

